



250字のつづやき大募集！

第8回

「仕事のルビー 働くサファイア」 ～働く私を動かした言葉や出来事～ 入選作品発表

当 NPO では、「仕事とキャリアのアーカイブ構築事業」として、職業キャリアに関する 250 字の投稿企画である第 8 回「仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～」を募集し、応募作品 349 点の中から入選作品 5 点を決定しましたので発表いたします。

《灰色で輝いて》が キラリしごと大賞 に！

【募集概要と応募結果】

■企画趣旨 わが国では、現在、約 6,699 万人の人々が働いておりますが、働く人一人ひとりの職業キャリアには、必ずキラリと光る言葉や出来事があったはずです。それを 250 字の投稿によって、働くことの意義や仕事のやり甲斐を共有し、「仕事とキャリアのアーカイブ」として集積し保存していくことを目的としています。2016 年以降 7 回実施し、いずれの年も専門誌や WEB サイトに掲載されるなど反響を頂いており、この度第 8 回の募集をいたしました。

なお、第 3 回からは「障がいのある人としごと～懸命に働く ともに働く～」をテーマとする「ガーネット賞」を株式会社イフの協賛のもとスタートしております。

■募集内容 働く私を動かした言葉や出来事に関する 250 字のつづやき
テーマ例：「仕事で励まされた一言」、「仕事で転機になったこと」等

■表彰 「キラリしごと大賞」(1名)：賞状と副賞(3万円図書券)、「サファイア賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券)、「ルビー賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券)、「ガーネット賞」(1名)：賞状と副賞(1万円図書券+イフ賞1万円クオカード)

■応募数：349件(男147 女201 自由記入1) 第1回は274件、第2回は420件、第3回は、351件、第4回は、509件、第5回は、401件、第6回は、568件、第7回は、150件。

■応募年齢：10代から80歳以上まで。職業も医師、保育士、看護師、教員、公務員、作業員、ピアノ講師、会社員、退職後主婦、定年後の方、パートアルバイト等様々。



■**選考** 2023年2月28日（火）に応募を締め切、4月17日（月）に認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク選考委員会による選考を行いました。

■**選考委員**：委員長／諏訪康雄理事長

副委員長／菊池桃子理事（女優・戸板女子短期大学客員教授）

委員／当NPO理事及び担当部長、（株）イフ 川崎芳清社長

■**主催** 認定NPO法人 キャリア権推進ネットワーク

2023年6月12日
認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク
〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番14号 新槇町ビル別館第一
理事長 諏訪康雄
お問合せ先 広報部長 川野晋太郎（090-6954-1270）
Email：info@career-ken.org
URL：<http://www.career-ken.org/>

【認定NPO法人 キャリア権推進ネットワークについて】

当NPOは、働く人々が希望する仕事を自ら選択し、仕事を通じて幸福を追求する権利である「キャリア権」の理念を広く社会に普及、浸透させることを目指して平成25年4月に発足し、そのための諸活動に取り組んでいます。

グローバル化、知識化する現代社会においては、働くために求められる新たな知識、技術、技能を習得する必要性が一層高まっており、また、人口、労働力の減少、高齢化が加速するなかで社会の活力や産業企業の競争力を維持、向上していくためには、働くことを希望するすべての人々が意欲に溢れて働くことができ社会を支える側に立ってもらえるようにすることが何よりも重要です。

性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず誰もが十分な職業能力を身につけることができ、その能力が高く評価される社会、会社が変わってもそれまでの経験や知識、技術、技能が正当に評価される社会、職業生活の全期間を通じて一人ひとりのキャリアが断絶することなく可能な限り継続できる社会の実現を当NPOは目指します。

このため、企業には人事に当たり社員のキャリアの形成、展開に配慮されること、行政には雇用、教育等の政策の立案、推進においてキャリア権の尊重、保障を考慮すること、司法には労働関係の裁判、審判においてキャリア権の理念が浸透することを目指して、働く人々、企業、労働組合、学校、行政、志を同じくするNPO等と幅広く連携し効果的な活動をしています。



第8回 仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～ 入選作品

■キラリしごと大賞

ペンネーム A.K. 様 中部在住 40歳代

「灰色で輝いて」

子育ても仕事も思うように進まずにモヤモヤしていた。もっと働きたい。もっと子どもといたい。もっとできるのに。もっといい母親でいるはずなのに。どちらかを選ぶしかない。声には出さなかったが、そんな思いを募らせていたことを察して下さったのだろう。上司からの年賀状には「絶対に手放しちゃダメ。白黒なんて付けたら仕事は続けられない。灰色、グレー、鼠色。み～んなそう！」と書かれていた。それ以来、誰もが濃淡あるグレーな日常に生きているんだ、と思えるようになった。仕事も子育ても思うようにはいかない。そして、楽しい。

<ご本人コメント>

この度はこのような賞を頂き、誠にありがとうございます。

「あの時、仕事を手放さなくてよかった」と振り返りつつ、改めてこの言葉の大きさを感じています。幼かった子どもたちは反抗期に突入し、若手だった職場での立ち位置は中堅へと変化しましたが、相変わらず、白でも黒でもない状態で奮闘する毎日です。そんなわけで、今も変わらずこの言葉に支えられ、この先もそうであろうと感じています。そんな貴重な言葉を共有させていただけたこと、心より感謝申し上げます。真摯に仕事に向き合い、周囲に恩返しできるよう努めていきたいです。



■ルビー賞

お名前 岡澤 瑞恵（おかざわ みづえ） 様 中部在住 30歳代

「輝ける世界」

高校を辞めて働き始めたガソリンスタンド。カッコいい女性になりたいくて、オイルやタイヤなどの交換作業を教わった。しかし車業界での女性の活躍は少なく「えっあなたがやるの？大丈夫？」そんな心無い言葉がとても悔しかった。そんな時、当時の所長が整備士の資格を勧めてくれた。「俺も受けるから一緒に受けてみようよ」次の日から私はとにかく勉強した。慣れないカタカナを、呪文のように唱える毎日。でも不思議と楽しかった。そして今私は自信を持って現場に立っている。左胸に国家資格整備士のワッペンを付けて。

<ご本人コメント>

この度は素晴らしい賞をいただき、大変嬉しく思っています。整備士の資格は、私にとってお守りのようなものです。最近では女性の社会進出が多くなってきましたが、それでもまだ働く女性へのイメージや偏見によって、辛い思いをしている方は少なくないと思います。「女性だから」を「出来ない」理由にしないでほしい。男性に出来て女性には出来ない、そんなことはないと思います。今よりももっと、女性が輝ける世界になることを祈っています。



■サファイア賞

お名前 森 麻里絵（もり まりえ）様 関東在住 30歳代

「胸に刻む」

「一步一步と」。これは、父の作業服の胸元に刻まれた文字。「ひとつひとつ丁寧に。そして、確実に進んでゆく」ということだろう、幼心にそう思っていた。だが、なぜか、“一步一步”の部分は白で、“と”は赤い糸で刺繍されている。ある日、父が言った。「お前、将棋わかるか？ 一番弱い駒で、“歩”ってあるんだけど。あれなあ、あるところまで行ったら“金”と同じ動きができるようになるんだ」「え？もしかして……」「な、あれはそういう意味なんだ」
仕事もうまくいかないとき、私はいつもこの言葉を思い出している。

<ご本人コメント>

ここ数年、父が私に与えてくれた愛情を感じる機会が増え「よし！あの日のことを書こう」と思い応募しました。ちょっとコワモテですが、色んなことを知っている父。生きるうえで必要なことの多くは、彼から教わったような気がします。思い切って書いた作品が運良く入賞し、受賞コメントまで書かせていただけるなんて本当に夢のようです。ありがとうございます。
最後に、この場をお借りして、父に一番伝えたいことを書きます。自分の子供のように育ててくれてありがとうございます。ちゃんと届くといいなあ。



■ガーネット賞

ペンネーム はまやらわっちゃん 様 北陸在住 50歳代

「思いやりと前向きと」

常に痛みを伴う持病があり障害者雇用で在宅ワークをしている。同じ会社で働く障害者の女性と業務連絡のため電話で話す機会があった。業務の会話が終了しても親しげな口調の雰囲気についつい話し込んだ。互いの障害のことなどを。私は痛みで眠れないときや仕事中の痛みの辛さを少し話した。彼女は視覚障害だった。「痛いのはつらいよね。私なんか見えないだけだから」そう言った彼女の言葉に衝撃を受けた。数年前までは見えていた目が全盲になったという状況で……。彼女の気持ちの強さに涙が出て止まらなかった。

<ご本人コメント>

このたびは素敵な賞を頂戴し、誠にありがとうございます。とても光栄です。今回のガーネット賞は私より、電話で話した彼女に向けての受賞だと思いました。部署が変わり、彼女とはもう交流することはなくなりましたが、忘れられない心に響く会話でした。体調の悪さや辛い出来事も多く続く中、彼女のやさしい声を思い出し頑張れる日々もありました。支えてくださる周囲の方々に感謝しながら、自分ができることをできうる限り今後も続けていきたいと思えます。受賞いただきましたことに感謝申し上げます。



■ガーネット賞

ペンネーム フー子 様 関東在住 30歳代

「誰でもできる仕事で」

うつ病と診断され障害者雇用枠で働くことになった。メインは病棟の洗濯物たたみ。正直こんなこと五歳の息子でもできる。だがある日リネン室を覗いた患者さんが「これはあなたが畳んでいたのね。病院にいながらまるでホテルのような感じがしてたの」と笑った。その表情を見るなり、なぜだろう、胸が熱くなった。こんなちっちゃな事でも誰かを笑顔にできるなら。今は誰でもできる仕事で誰よりもできる人間になりたいと思う。

<ご本人コメント>

このたびは素晴らしい賞に選んでいただきありがとうございました。とても嬉しく、感慨深いです。今の仕事はちいさな頃からの夢でしたが、なかなかうまくいかず葛藤の日々です。「もっとできるのに」と思ったり、「なんで私はこうなんだろう」と悩んだり。感情のジェットコースターに悩まされることなんてしょっちゅう。それでもたくさんの方のおかげでここまでやってこられました。今回は作品を選んで下さった方と、支えて下さった方に、「ありがとう」を伝えたいです。そして自分なりにこれからも精進していきたいです。本当にありがとうございました。